

(電子メール施行)
農 技 第 1281 号
令和元年 10 月 9 日

関係機関長様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報第 1 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和元年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)
- 2 対象作物 飼料用トウモロコシ、ソルガム、スイートコーンなど
- 3 発生地域 淡路地域

4 発生経過

南あわじ市に設置したツマジロクサヨトウ用フェロモントラップにおいて、2019 年 10 月 2 日、本種と疑われる成虫が捕獲された（写真 1）。神戸植物防疫所に同定依頼した結果、10 月 4 日に県内では未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。

本種に関する侵入警戒調査はこれまでも実施してきたが、フェロモントラップでの捕獲以降に、周辺のソルガムほ場で実施した調査でも、本種幼虫の発生は認められなかった。

5 国内における発生状況

本種は 2019 年 7 月 3 日に鹿児島県の飼料用トウモロコシにおいて、国内で初めて確認され、これまでのところ、九州をはじめとする 19 府県のほ場で発生が確認されている。このほか、徳島県（9 月 26 日）でもフェロモントラップにおいて成虫が捕獲されており、特殊報が発表されている。

なお、近隣府県の岡山県（8 月 19 日）、三重県（9 月 3 日）、大阪府（10 月 1 日）では、飼料用トウモロコシやソルガムほ場において幼虫の発生が確認されている。

6 本種の特徴

(1) 形態及び生態

ア 成虫は開張約 37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅中央部に白斑を持つ（写真 2）。終齢幼虫は体長約 40mm で、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆 Y 字状の模様が特徴である（写真 3、写真 4）。卵は寄主植物に

塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

イ 本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。

(2) 分布

北米～南米、アフリカ（エジプト、サハラ以南）、アジア（インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど）

(3) 寄主植物

文献によると、アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）などの広範囲な作物を加害すると言われている。

ただし、これまでのところ、国内ではイネ科作物（飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ）においてのみ発生が確認されている。

(4) 被害

幼虫が植物の葉、茎、花、ならびに果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する（写真5、6）。

7 防除対策

(1) 多発すると被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。本種と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに病害虫防除所に連絡する。

(2) 兵庫県は、本種の発生が確認された場合、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定に基づく措置として、以下に示された薬剤の散布指導を行う。

（農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」）

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-32.pdf

(3) 薬剤散布が困難な場合は、早期刈取りによる青刈りサイレージ処理を実施するとともに、幼虫の分散を防ぐため、収穫後は残渣のすき込みを実施する。

8 問い合わせ先

兵庫県病害虫防除所（加西市別府町南ノ岡甲 1533）

電話番号：0790-47-1222



写真1 フェロモントラップに捕獲された雄成虫



写真2 ツマジロクサヨトウ成虫 (左:雄 右:雌)

※黄矢印:雄成虫に特徴的な前翅中央部の白斑



写真3 ツマジロクサヨトウ幼虫

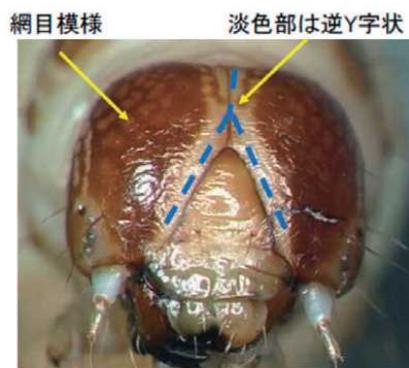


写真4 逆Y字が特徴的な幼虫の頭部



写真5 葉の食害痕(飼料用トウモロコシ)



写真6 葉鞘部の食害痕と虫糞(飼料用トウモロコシ)

【写真2～6はいずれも農林水産省および植物防疫所のホームページから引用】